

建設関係各位



九建総合開発は熊本県 SDGs 登録事業所です。

## 九建グループの脱炭素への取り組み

2023年2月1日

株式会社 九建総合開発

日本は2050年に完全なカーボンニュートラルを実現することを目標に定めています。

カーボンニュートラルとは、温室効果ガスの排出量と吸収量を等しくすることで、実質的な排出量をゼロにすることです。

2030年には途中経過として、2013年比で46%の温室効果ガス削減することが目標とされています。

そこで九建グループの取り組みとして、2018年から高純度BDF燃料（リーゼル）の試験運用をすすめてきました。高純度BDF燃料（リーゼル）は熊本県内で回収した廃油（植物性天ぷら油）を精製して作られます。そのCO<sub>2</sub>排出量がゼロカウントとなる高純度BDF燃料（リーゼル）を自社建設機械等で使用してきました。

高純度BDF（リーゼル）は植物由来の廃食用油が原料となっており、菜種・大豆・とうもろこし・胡麻・ひまわり・紅花・オリーブなどの油が含まれています。これらの植物は生育過程において大気中のCO<sub>2</sub>を吸収していること、またリーゼルは燃焼させてもCO<sub>2</sub>の排出が他のエネルギーに比べて微量であることから、ライフサイクル全体で見るとCO<sub>2</sub>の排出量が実質ゼロカウントであるといえます。

廃食用油バイオディーゼル燃料は、地球温暖化防止、循環型社会の構築に役立つ資源として注目されています。

九建グループである（株）未来樹では、2022年に経済産業省、国土交通省、エネルギー庁、九州経産局、熊本県、高純度バイオディーゼル燃料事業者連合会の協力のもと、廃油回収とB5、B30の製造、B100の販売ができることになりました。

それにより（株）九建総合開発では、基礎工事を通して現場の脱炭素化が可能になりました。具体的には、現場通勤車、発電機、杭打ち機、クレーン車等に高純度BDF燃料を使用することで20%以上の脱炭素化が可能になります。

この取り組みは建設業界では国内で唯一、九建グループだけであり、脱炭素化に向けいち早く対応いたしました。

変化し続けることを恐れず、社会・業界を牽引する企業を目指します。